

月報

<460号>

ケルンボン日本語
キリスト教会

二〇二四年五月五日

「復活の喜び」

佐々木良子

今年は、受難節を迎える頃より、「罪・十字架・復活」について、いつになく心に深く迫ってくるものがありました。

このような苦難な時代に生かされている私たちだからこそ、「今こそ、復活の希望の御言葉を力強く発信し続けよう!!」と、主に背中をボンと押された気がしました。

そこで、主日礼拝の説教、聖書の学び会、家庭集会、読書会等、教会の全ての集会では、「罪・十字架・復活」というテーマで、二月からおよそ三カ月かけて、聖書から丁寧に見て参りました。

特に聖書の学び会では、皆さんがご自分の内なるものが、御言葉の光に照らされて、様々な気づきや発見があるようです。最後に捧げる各自のお祈りの時、悔い改めや更なる導きを求めておられそこに生きて働いておられる主との深い交わりを実感しています。

とはいえ、復活について全てを素直に納得できるといってわけではありません。まして、絵に描くことが出来るように話すことは、ほとんど不可能です。しかしそれは、復活がないというのではありませぬ。

これに関して言えることは、私たちの理解する力の中に納まらないということ。私たちは自分の知っていることから想像し、推測することによってしか理解出来ないからです。それが、人間の理解の限界です。

復活という事柄は、そのような私たちの想像や推測の向こうにある、神様側の事柄、神様の領域だからです。そうすると私たちは、結局何も分からないのかというと、そうではないのです。大切なことは、生ける神との生き生きとした交わり、そこに生き切るということではないでしょうか。

マタイによる福音書二八章には、皆さまもご存知の通り、イエス様のご復活に関して記されています。イエス様が十字架に架けられた後、マグダラのマリアともう一人のマリアは墓に行きましたが、そこで見たものは、転がされた大きな石と開かれた墓の入り口でした。

「天使は婦人たちに言った。『恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだろうが、あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。』」(五、六節)

ここで目に留めたいのは、イエス様がどのように復活されたかということ、一切触れていません。「復活された」という宣言と、もう既にそこには「遺体がない」という事実を確認させただけでした。このことは、復活に関して鮮明にすっきりと理解できない現代に生きる私たちに対する示唆でもあるといえます。

事実だけをしっかりと見つめれば良い、それだけで十分である。否、それが重要なことだと言えるのではないのでしょうか。

実際に、マグダラのマリアともう一人のマリアはどうだったのでしょうか。「婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った。」(八節)と記されています。

彼女たちにとって重要だったことは、復活の出来事を納得するとか、理解するというような範疇ではなく、恐れながらも「復活されたという事実」そのものが「喜び」だったのです。そうして終わりだと思っていた絶望の場所から立ち上がって、復活の喜びを伝える者として新しくスタートしたのです。

私たちも、この婦人たちの信仰を見習ってゆきたいものです。復活は、理解し納得、するものではなく、その事実を「喜びること」だということです。

そうした時、「理解できない、納得できない」という、解決できない人間的な思いから解放されてゆくことでしょうか。そして既に私たちの先を歩んでおられる復活の主に出会い、素直に復活の喜びを分かち合う者となりたいものです。

「あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。」(七節)両手を広げて私たちを待っていてくださるイエス様がおられます。

ドイツ教会の受難週

シユミット亜弥子

ドイツの州教会では毎年受難節に「断食」のように、何かを断つ「無し」の七週間」というキャッチフレーズを掲げ、「おいでよ！ひとりぼっちで過ごすのをやめる七週間」というテーマでした。

- 第一週 共に歩む
 - 第二週 最愛の人と共に
 - 第三週 向こう側にいる人と共に
 - 第四週 創造された世界と共に
 - 第五週 広い世界と共に
 - 第六週 委ねられた人と共に
- それぞれに聖書の箇所が記されています。それから受難週に入ります。今年、私はその週にある礼拝に出席しました。

棕櫚(しゅろ)の主日

日。一時からの礼拝で行く途中にカトリックの教会があつて、子供達が皆、枝を持って歩いていました。幼稚園で作ったのだそうです。部屋の一角にそれを飾ります。乾いた枝は灰にして、それを灰の水曜日に使います。



さてプロテスタントの礼拝では、祭壇前の洗礼盤の上に、風船とテニスボールが置いてありました。礼拝前に牧師がイースターの日にちはどうやって決めるのでしょうかと問いかけ、会衆が答えます。太陽は懐中電灯を使い、地球は風船、満月はボール、半月など天体の説明をしてから礼拝が始まりました。受難節には是非賛美したいと思っていた讚美歌二一・三一三番「愛するイエス」を歌うことができたので嬉しかったです。

木曜日。聖餐式もある夕礼拝。説教はリーメンシユナイダーの彫刻・聖血の祭壇の「最後の晩餐」の写真をしながらのお話でした。聖餐式はいつものように前に出て輪になってですが、牧師がみんなに配るのではなく、各自が隣の人にパンと盃を廻していきました。

金曜日。祝日なので通常の一時からの礼拝。蝋燭 お花はありません。説教は昨日の続きで、リーメンシユナイダーの十字架のイエスの彫刻を見ながら、彫刻にある左右の人達の表情などを見ながら聴きました。



土曜日。二時からイースターの焚き火を持つての礼拝。教会前に火は起こしてあつて、周りに私達。聖書の「光あれ」の天地創造の箇所を聞き、皆が知っている讚美歌を歌いながら大きな今年のイースター蝋燭に焚き火から灯りを取ります。それを先頭に皆小さな蝋燭を頂いて、暗い会堂に入り、席に着いてから順々に小さな各自の蝋燭に火が灯ります。今年堅信式をする女の子の洗礼式もありました。讚美歌二一・三一六番「復活の



主は」を歌いましたが、まだまだみなさんと「イースターおめでとう」とは言わず、蝋燭を持って静かに会堂を出ました。

イースター礼拝。「ハレルヤー！」と、喜びの歌声で礼拝が始まるのだらうと想像します。私は午後の日本語教会の礼拝があるのでドイツの礼拝には出席しませんでした。イエス・キリストの十字架の歩みを頭でなく、身体で体験した貴重な一週間でした。



ケルン・ボン日本語教会のイースター礼拝に参加して

フリユッセル日本語キリスト教会 岡山邦代
イースターおめでとうございます。ケルン・ボン教会での礼拝にフリユッセルから来ました。佐々木先生の素晴らしい説教をお聞きした後、愛餐会では美味しい日本食を頂きながら、皆さんとお話できた事を感謝しています。そして、この席で思いがけず故郷とつながる不思議な巡り合いがあつて、嬉しかったです。皆さんの手作りのお食事とお菓子、ありがとうございました。また、フリユッセルでもこのような機会がある事を願っています。



フリユッセル日本語キリスト教会 鍋谷枝実子

フリユッセル教会の方の車に皆さんと乗り合つてケルンまでやってきました。高速道から大聖堂が正面に現れ、教会近くの公園では、春の訪れを告げる桜がとても綺麗に咲いていました。再訪が叶い、落ち着いた佇まいの礼拝堂にはイースターから始まる大きな口ウソクがありました。ベルギー

では日曜日と月曜日のみ祝日ですが、ドイツでは、聖金曜も祝日で、静かに過ごすということをお聞きして、イースターに対する意気込みの違いを思わされました。佐々木先生のメッセージは慈愛に満ち、またケルンの皆さまと復活の主を共に賛美でき涙が溢れました。

ベルギーでは、イースターの定番は、卵チヨコですが、ドイツでは本物の卵探しに挑戦！童心に返り心が弾みました。また心尽くしの愛餐会にレシピを伺い、特にプロッコリーが忘れがたい味でした。

今年から佐々木先生が月一回、ベルギーに来訪され子ども・大人の礼拝、聖餐式、そしてイースター礼拝を迎えました。小さな無牧の群れにも大きな愛が注がれているのを感じます。ケルン・ボン教会の前の八重桜が祝っているように咲き、いつも恵みの中にある事をもう一度思わされるイースターとなりました。

ブリュッセル日本語プロテスタント教会近況報告

今年に入ってから月一度、ケルン・ボン日本語キリスト教会の佐々木良子牧師による対面での主日礼拝と聖餐式が行われています。

的場 めぐみ
瀧川 真理子



一月は、「愛とは」(ヨハネの手紙一四章七〜二節)という説教題で、私たちが主からいただいた愛は主に返済していく膨大な「借金」であり、少しでもお返ししていくという信仰の決心を、一年の初めに新たにいたしました。

二月「悔い改め」(ルカによる福音書五章二七〜三二節)というメッセージでは、聖書では「悔い改め」と訳されている「メタノイア」という古代ギリシャ語の言葉が示すように、生きていく上で自らの罪を告白し主に向き直る、方向転換の大切さを伝えていただきました。

三月「新しい掟とは」(ヨハネによる福音書一三章三〜三五節)では、主が私たちを愛してくださるように、私たちも互いに愛し合うということ、十字架に向かわれる前、イエス様が弟子たちに語られた新しい掟であることを覚えられました。礼拝後には祈禱会が行われ、メッセージで執り継がれた御言葉に従い、神様や他人から救いや愛を求めるだけでなく自らも与える生き方をしたいという、参加者一人一人の祈りが束ねられ、御前に捧げられました。主日礼拝と聖餐式は、普段オンラインで説教を聞き祈る教会員にとって、よりいっそうの感謝と喜びに満たされるひと時です。

子供の礼拝でも、これまで三回にわたり佐々木牧師にお話をしていただきました。一月の「イエス様と出会った博士たち」では、イエス様のご誕生に際し、異なる考えを持ち、それらに基づいて対照的な行動をとったヘロデ王と三人の博士になぞらえ、主と私たちの関係について学びました。

二月の「神さま、ごめんなさい」というお話では、罪深い私たちに寄り添い罪を許し、私たちが主とともに生きることができるようになってくださったイエス様の御言葉を受け取りました。

三月「ロバの子に乗ったイエス様」は、主の御前に小さき者である私たちの目線に立って、優しく語りかけてくださる王であるイエス様と、そんなイエス様を私たちのもとに送ってくださった主のご計画についてのお話でした。

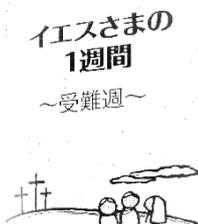
これまで参加した子供たちには、メッセージに合わせたぬり絵、「主の祈り」カード、イエス様の受難の一週間が描かれた手作りの小冊子絵本が配られ、引き続き、御言葉の学びと祈りのために用いられています。子供たちのぬり絵は、子供たちの心にしっかりと焼きついた御言葉そのままの鮮やかさが、豊かな色彩で表わされています。

礼拝後は、一月はベルギーやフランスにて公現祭に食べられる王様ケーキ(ガレット・ド・ロア)を、二月は聖燭節にちなみ、ベルギーや近隣国で伝統的に食されているクレープを皆でいただきました。三月も祈禱会の際、温かいお茶とお菓子を囲んで交わりました。



◆王様ケーキ (ガレット・ド・ロア)

◆ケーキの中の王冠が当たったお友だち



報告

「KB教会の公益性認可取消処分」の解除に関して

藤井 隼人

昨年一月二七日発行の月報前号(四五九号)で、年末のご挨拶の際に、当教会が遭遇した大問題に関して詳細をご報告させて頂きました。

当時、既に提出期限を徒過してしまつた三年間分(二〇一八〜二〇二〇年)の税務申告について、所轄税務署から①法人税と営業税の免税措置の停止、②公益性認可の取消し、及び③三年に一度で良いとされていた税務申告を毎年申告に変更、という行政処分を受けたのです。

①税務署からは、三年分の法人税と9255ユーロ、ケルン市から同じく三年分の営業税と9255ユーロの納付命令を受け、直ちに納付しました。当局の指定する納付期限までに支払う義務が納税義務者全員に課せられており、滞納すると延滞金が加算されます。

②公益性認可が取消された時点以降、教会は献金して下さった方々に対する「献金証明」の発行が許されなくなり、献金者にとっては、個人所得税申告時に献金額(限度あり)を所得から控除できるメリットを享受できない状態でした。

しかし前号でご報告した Prof. Dr. Vogelbusch 公認会計士兼税理士のご支援により、①法人税は既に全額払い戻され、営業税についても、還付する旨の通知が数日前にケルン市から届いています。②公益性も三月二二日付の税務署の文書によって回復されました。但し、③の税務申告は「当分の間」毎年行うこと、となっています。

本件につき、皆様にはお祈りと励ましを頂きました。このように解決できましたことを主に感謝し、皆様に厚くお礼を申し上げます。

◇ 報告 ◇

◇一月一日(日) 会堂にて新年礼拝をお捧げしました。着席での祝会はコロナ禍以来初めて行うことができました。

◇一月二八日(日)、教会定期総会にて、二〇二五年から、宣教師として金聖恩姉を招聘することが満場一致で決議されました。

◇一月二八日(日) 午前10時よりスカイプにて定期総会を開催し、全ての議案が承認されました。新役員として藤井千恵姉が選ばれました。

◇三月一〇日、吉丸おと姉・Peter Dabbsさんは、ボンヘッファー教会にて結婚式を挙げられました。おめでとございませう。

◇三月一七日の礼拝において、加納和寛牧師(関西学院大学神学部教授)・美巴姉の送別礼拝をいたしました。尚、ご夫妻は、三月二五日に日本に帰国されました。

◇三月三十一日(日) イースター礼拝は、昨年同様ブリュッセル日本語教会の有志の方々がお見えになり、一緒にイエスさまのご復活をお祝いしました。礼拝後、たまご探しをしてから、愛餐の時をもちました。

◇四月二一日(日) ボンヘッファー教会との合同礼拝に参加し、その後、聖書の食事を共にしました。(当教会からは、五名参加)

◇四月二三日(火) 佐々木良子牧師は、「バルセロナ日本語で聖書を読む会」のズームにて説教のこ用をいたしました。

◇ウクライナで宣教活動されている船越真人・美貴宣教師の支援のために、教会から五〇〇ユーロをミラノ賛美教会を通して献金しました。

◇日本基督教団・輪島教会に復興支援のために五万円をお捧げいたしました。

◇ お知らせ ◇

◇五月一二日(日) 佐々木牧師はフランクフルト福音キリスト教会にて説教のご用のために、会堂での礼拝はありません。Zoomに参加いたします。

◇六月九日(日) 佐々木牧師は、デュッセルドルフ日本語キリスト教会にて説教のご用のために、私たちの礼拝は、会堂に集まってデュッセルドルフでの礼拝にスカイプで参加します。

◇ 予告 ◇

六月一六日(日) 礼拝において役員任職式。礼拝後、懇談会。

Strassenfest (教会通りのバザー)

日時: 六月三〇日(日)、一〜一時一五分から
ボンヘッファー教会との合同礼拝後
場所:ボンヘッファー教会

ヨーロッパ・キリスト者の集い

テーマ「時がある」
日時: 七月二五日(木)〜二八日(日)
場所: Schönlick, Baden-Württemberg

◇ 編集後記 ◇

五月を迎えようとする今、時の流れの早さを実感する日々。この状況からゆくとあつという間に今年も半分が終わってしまうのでは、時の流れについてゆくのがやっとです。時間に追われるのではなく、未来を先取りしながら逆算して今を生きていることができたら・・・なんて思うこの頃です。

(佐々木良子牧師)

発行: ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
 Japanische Evangelische Gemeinde
 Köln/Bonn e.V.

<主日公同礼拝>
 会場: Dietrich Bonhoeffer Kirche
 住所: An der Decksteiner Mühle 1
 50935 Köln(lundenthal).Getmanj
 電話: 0221-430319 (礼拝前後のみ)
 時間: 毎週日曜日 14:00-15:00
 <牧師> 佐々木良子 (Pfr. Ryoko Sasaki)
 牧師宅: Breslauer Str.26. 50858 Köln
 固定電話: 02234-9298792
 携帯電話: 0151-2910 6278
 E-mail: r310130s@gmail.com

<ホームページ>
 http://koelnbonn.jp
 <振込口座>
 IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38
 BIC: PBNKDEF